

タイトジャンクション (TJ) 関連タンパク質の基礎と臨床

衣笠 哲史¹⁾²⁾ 黒木 政秀¹⁾ 黒木 求¹⁾
芝口 浩智¹⁾ 黄 健¹⁾ 二見喜太郎³⁾
白日 高歩²⁾ 山下 裕一²⁾

¹⁾ 福岡大学医学部生化学

²⁾ 福岡大学医学部第2外科

³⁾ 福岡大学筑紫病院外科

要旨：細胞間のタイトジャンクション (tight junction : TJ) には2つの機能, すなわちバリア機能とフェンス機能が知られている。また, TJ を形成する TJ 関連タンパク質は細胞間の接着のみならず, 細胞の極性形成や腺の分化をも支配することが知られている。近年, 多くのタンパク質が新しく TJ 関連タンパク質として細胞内に同定されるとともに, これらのタンパク質が細胞内シグナル伝達に関与する分子であり, 細胞の増殖や腫瘍発生過程にも重要な役割を担っていることが明らかにされている。ここでは, 細胞間接着分子としての TJ 関連タンパク質の位置づけと分子生物学的性状を整理し, その発現と疾患との関わりについて概説する。

索引用語：タイトジャンクション, オクルディン, クローディン, 細胞間接着分子